

令和4年度岡山市海洋プラスチックごみ対策アクションプランの運用に係る推進会議（第3回）

結果報告

- 1 日時 令和5年2月24日（金）13時30分～16時30分
- 2 場所 岡山市勤労者福祉センター4階 第1会議室
- 3 出席者 17名（継承略）
有識者 赤井委員、磯部委員、菊竹委員、木山委員、田中委員、平井委員、
藤原委員、山田委員（欠席：黒崎委員、利根委員）
岡山市 環境事業課3名、環境保全課1名、農村整備課1名、SDGs・ESD推進課1名、
下水道河川計画課1名、道路港湾管理課1名、生涯学習課1名
（欠席：農林水産課、生活安全課）
運営責任者 環境事業課長 岡崎、運営業務担当職員 環境事業課2名
オブザーバー
岡山県環境文化部循環型社会推進課 蜂谷氏
日本財団 小蓑氏、矢萩氏
聴講者 山陽新聞社 岡山氏
事務局 公益財団法人岡山県環境保全事業団 環境学習センター「アスエコ」

4 内容

- (1) ワークショップの趣旨、本日の目的・目標を確認（事務局）
- (2) 第1回及び第2回推進会議の成果物を振り返り（事務局）
- (3) 岡山市の取組状況と次年度事業計画を説明（岡山市）
- (4) 次年度に向けた申し送り事項の協議：ワークショップ
- (5) 海洋プラスチックアクションプランパンフレット（岡山市作成）の内容について協議
- (6) オブザーバーからの情報提供

※ワークショップは以下の2グループに分かれて実施

A チーム構成員

- 有識者 磯部委員、田中委員、藤原委員、山田委員
岡山市 環境事業課：2名
SDGs・ESD推進課：1名
生涯学習課：1名

B チーム構成員

- 有識者 菊竹委員、赤井委員、木山委員、平井委員
岡山市 環境事業課：1名
環境保全課：1名
農村整備課：1名
道路港湾管理課：1名
下水道河川計画課：1名

5 当日プログラム

【イントロダクションおよびふりかえり】

13:30

- 市より一言
- WS趣旨と本日の目的、目標について説明
- 流れについて説明
- 第1回と第2回の成果物を確認

13:45

- 岡山市の取り組み状況と次年度事業計画の説明（10分）

13:55

- 説明内容への質疑応答

【次年度に向けた申し送り事項の確認】事務局案をベースにKPTを協議

14:15

- 各自でKPTを付箋に整理

14:25

休憩

14:35

- 各班で協議（付箋で整理）15分
- 2班で合体（10分）
- ワールドカフェで共有（10分）
- グループでふりかえり（5分）

15:20（休憩）

【海洋プラアクションパンフレットの内容について意見協議】

15:25

- 岡山市作成のパンフレットについて意見協議

【オブザーバーからの情報提供】 ※オブザーバー（岡山県、日本財団）

15:55

- 連携各機関の取り組み状況の確認
→岡山県、日本財団オーシャンズX

【クロージング】

16:25 岡山市より挨拶

16:30 終了

6 結果

(1) 第1回及び第2回推進会議 成果物 振り返り

事務局より、第1回及び第2回推進会議の成果物をスクリーンに示して、これまでの振り返りを行った。

(2) 岡山市の取り組み状況と次年度事業計画を説明

岡山市より、海ごみに関する今年度実施事業と来年度実施予定事業について、部局ごとに整理した内容が説明され、参加者は、その資料をもとに気になる事業に対して、当該事業の関係部局へ意見や提案を行った。

(3) 次年度に向けた申し送り事項の協議

次年度、より良い推進会議の運営・推進が行われるよう、本推進会議のあり方について協議した。実施方法は、ワークショップ形式をとり、以下3観点から意見やアイデアを整理した。

※各観点：KEEP（よかったこと、今後も続けてよいこと）

PROBLEM（問題点、改善が必要なこと）

TRY（新たにチャレンジしてもよいこと）

整理した結果は、観点ごとに模造紙に整理し、出席者は、ワールドカフェ形式による発表を行い、お互いの協議結果を把握した。

※発言があった質問や意見等については、事務局で集約した。

(4) 海ごみ啓発教材（岡山市作成）の内容について意見協議

岡山市が、海洋プラスチックアクションプランの普及啓発のために作成する本プランの啓発教材（案）に対し、参加者で構成やデザインなどより効果的な啓発につながる意見・提案を行った。※発言があった質問や意見等については、事務局で集約した。

(5) オブザーバーからの情報提供

最後に、オブザーバー参加の日本財団および岡山県環境文化循環型社会推進課から、海ごみに関する取り組み等について話題提供をいただいた。具体的内容としては、日本財団からは、瀬戸内オーシャンズXの概要、背景、今後の展望等について、岡山県からは海ごみ対策事業および今後の展望についてであった。

